



株主・投資家の皆様へ

# 第100期 中間報告書

2019年4月1日～2019年9月30日



P1 株主・投資家の皆様へ

P3 連結業績ハイライト

P5 特集、Topics

P7 企業情報



株主・投資家の皆様へ



## 独創力で、 “一步先行く提案”型企業へ

株主・投資家の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、第100期第2四半期連結累計期間(2019年4月1日～2019年9月30日)における事業の概況と業績につきまして、ご報告申し上げます。

代表取締役社長 兼 C.E.O.

田中直人

### ◆ 第2四半期連結累計期間の概要

当期間におけるわが国経済は、中国を中心とした海外経済の減速に伴い輸出や鉱工業生産が低迷し、製造業の企業収益や設備投資が頭打ちとなるなど、先行き不透明感が強まっています。また、10月からの消費増税の影響など、個人消費の先行きも予断を許さない状況です。

一方、世界経済は、中国では貿易摩擦の激化やICT関連の需要鈍化による景気減速が続き、米国でも通商政策の不透明感などを背景に引き続き企業景況感や設備投資が軟調に推移、欧州もドイツで自動車産業の低迷が深刻化するなど、米国、中国、欧州がいずれも減速傾向にあります。

このような状況下、当期間の当社グループの売上高は前年同期比2.2%増収の256億93百万円となり、第2四半期

として3期連続で過去最高を更新しました。利益面では、営業利益は前年同期比3.7%増益の35億67百万円、為替差損の発生等により経常利益は同3.2%減益の36億26百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同0.3%減益の25億34百万円と、前年を下回りました。

### ◆ 長期ビジョン「Challenge 1000」について

本年5月、当社グループは新たなステージへと飛躍するため、2030年の実現を目指した長期ビジョン「Challenge 1000」を策定いたしました。企業理念「独創力」の下、当社が2030年に目指すグループの姿として「独創力で、“一步先行く提案”型企業へ」を掲げ、独創的なアイデアで社会課題を解決し世界の進歩をリードすることにより、お客様

四国化成グループ長期ビジョン

## 「Challenge 1000」

当社グループは、新たなステージへの飛躍を目指し、2030年を目標とする長期ビジョン「Challenge 1000」を策定いたしました。これまでの中期経営計画では描き切れなかった長期的な視点から目指す姿を設定し、飛躍的な成長を実現していきます。

2030年に  
目指す姿

## 独創力で、“一步先行く提案”型企業へ

独創的なアイデアで社会課題を解決し、世界の進歩をリードする

顧客

一步先の価値を

ユニークで最先端の製品・サービスで、新たな価値を提供する

従業員

挑戦と成長を

多様な働き方と挑戦による成長実感で豊かな人生を応援する

社会

より良い明日を

社会課題の解決に貢献し、豊かな生活環境を実現する

には「一步先の価値」を、従業員には「挑戦と成長」を、社会には「より良い明日」を届けてまいります。また、「Challenge 1000」ではレスポンシブル・ケアによる環境保全活動に加え、さらなる社会課題の解決のため国連で採択された持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に貢献することを表明しております。

SDGsでは「誰一人として取り残さない」という考えの下、2030年までに世界規模の課題を社会全体で解決していこうという大きな流れが形成されており、この達成には企業の貢献が不可欠です。当社の主要な事業の中には、すでにSDGsと深い関わりがあるものがいくつかあります。例えば、ファインケミカル事業では、スマート社会の実現など未来のICT技術で必要となる素材やプロセスの提供を通じた、技術革新の基盤形成への貢献があります。有機化成品事業では、殺菌・洗浄・漂白技術で、世界中の人々に安心な衛生環境を提供するとともに、海洋環境の維持にも携わっています。建材事業では、より良い製品や空間づくりの提案を通して未来の暮らしをデザインし、世界中の人々が安心・安全に暮らせる街を創造しています。

また、近年、台風の大規模化やゲリラ豪雨の発生など、地球環境の変化が影響を与えているとされる自然災害が増加していますが、持続的な成長の実現には、地球環境に過度な負荷をかけない規制の強化も求められています。当社は、生産現場などにおける再生可能エネルギーの積極的な活用を検討も含めて、このSDGsを意識した経営を進めてまいります。

「Challenge 1000」では、長期的視点に立った成長戦略の実行による飛躍的な成長を目指し、2030年の財務目標として、売上高1,000億円、営業利益150億円、ROE

(自己資本利益率) 10%以上を掲げております。これからも、一步先の価値を創造し、持続可能な社会に貢献することで、世界に誇れる会社となることを目指してまいります。

## ◆ 株主還元の基本方針について

当社グループの原点は、創業の理念である「独創力」です。グループ役員一人ひとりが、この理念を体現することにより、価値ある製品とサービスの提供を通じて、株主・投資家の皆様をはじめとするすべてのステークホルダーに貢献してまいります。

当社は株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要政策のひとつと位置付けており、業績に裏付けられた成果配分を安定的に行うことを基本方針としております。このたび、当社グループの現在の財政状態及び長期ビジョンによって描かれる今後の展望を踏まえ、株主の皆様に対するより一層の利益還元重点をおいた経営を行うこと、また還元方針をより明確にする定量的な枠組みを設けることを目的に、2030年に至る長期ビジョン「Challenge 1000」の期間中において「連結業績を基準として、配当性向30%、総還元性向50%」を目指すことといたしました。2019年度の間配当金につきましては、この基本方針や業績、財務状況等に鑑み、前年同期比1円増配の、1株につき12円とさせていただきます。

株主・投資家の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年12月

企業理念



## 私たちは常に独創性を重んじ、これを会社発展の原動力とする。

- 「独創力」は、未来永劫掲げていく四国化成グループの理念
- 二酸化炭素の革新的な製法の発明に始まり、その後も節々で独創性の発揮を成長の礎、発展の力としてきた
- 一人ひとりの持つ知恵を結集し、思いもよらない発想で常に新たな道を切り拓いてゆく

## 長期ビジョン「Challenge 1000」の意義

- 当社グループは、これまで中期経営計画を策定・実行することで着実に成果を上げてきました。
- 今後は、これまでの中期経営計画では描き切れなかった**長期的な視点から目指す姿**を定め、その**実現に向けた成長戦略**に取り組むことで、飛躍的な成長の実現を目指します。

## 財務目標 (2030年3月期)

売上高

1,000億円

営業利益

150億円

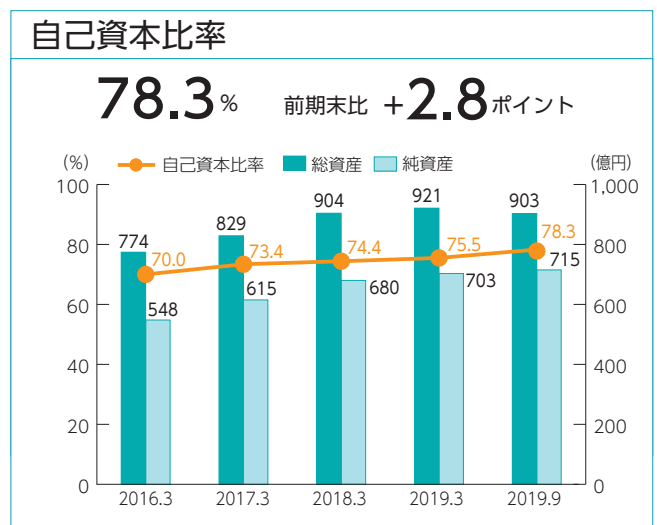
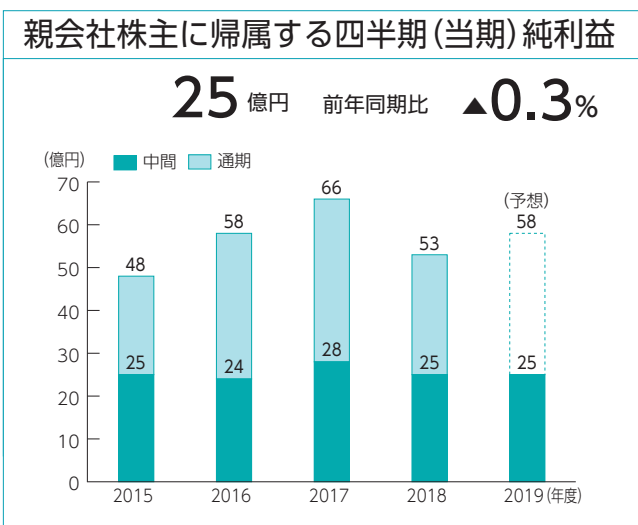
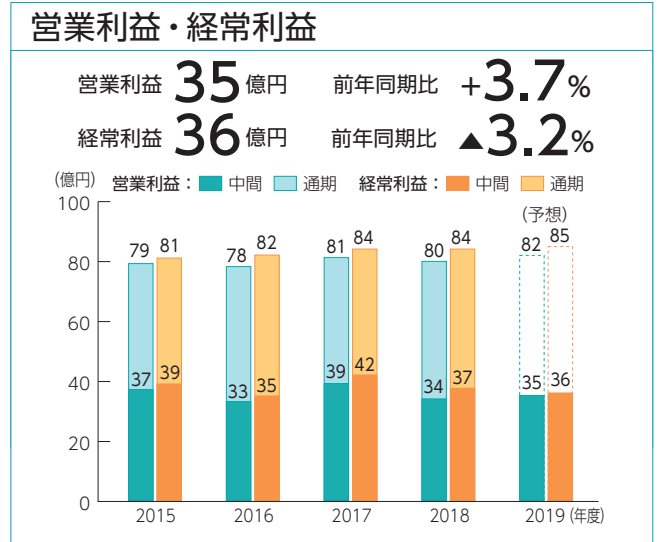
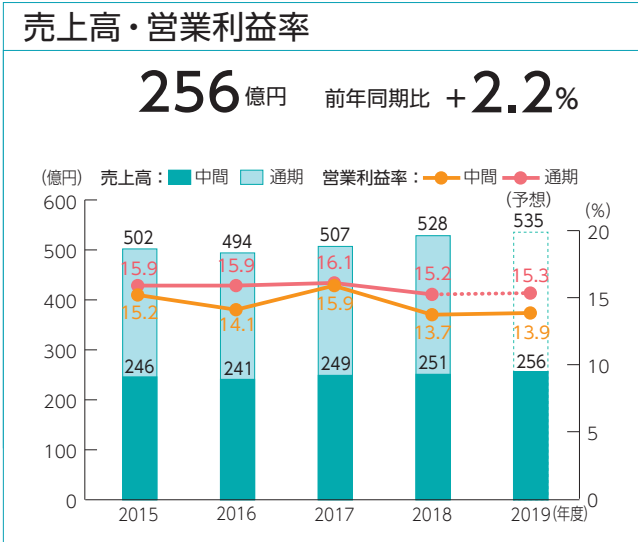
ROE

10%以上

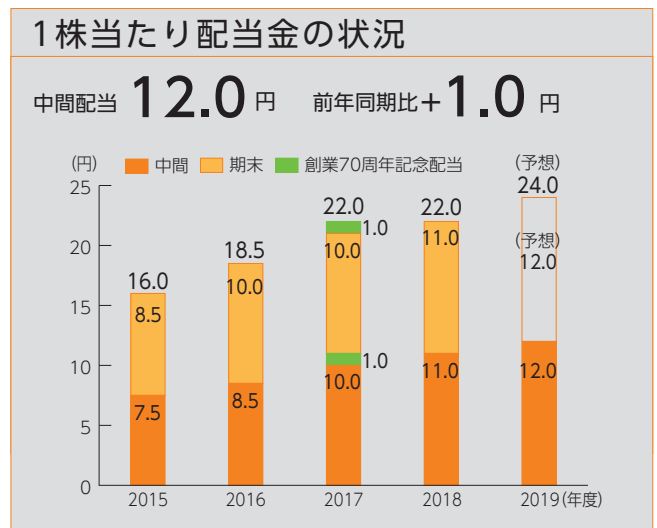
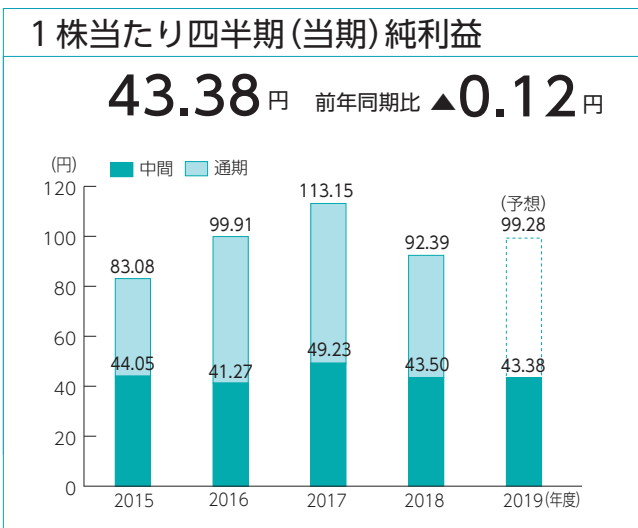
第2四半期業績のポイント

- 売上高は前年同期比2.2%増収の256億93百万円。第2四半期として過去最高を更新
- 中間配当は前年同期比1.0円の増配の1株当たり12.0円

※グラフ中の金額は、億円未満を切り捨てて記載しております。



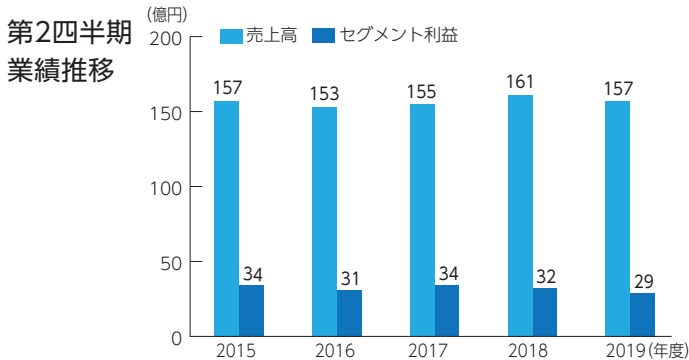
(注) 2018年度(第99期)より「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を適用しており、過年度については遡及適用後の値を記載しております。



## セグメント別事業概況

### 化学品事業

売上高 **157億40**百万円  
セグメント利益 **29億55**百万円



不溶性硫黄は、国内市場は堅調であったものの、海外市場の低迷を受けて、横ばいで推移しました。シアヌル酸誘導品は、米国市場が好況を維持しており、堅調に推移しました。ファインケミカルは、全般に米中貿易摩擦を主因とする電子部品関連の市況停滞の影響を受け、タフエースを主力とする電子化学材料は横ばいで推移したものの、イミダゾール類を中心とする機能材料は低調に推移しました。

この結果、化学品事業の売上高は157億40百万円 前年同期比2.6%の減収、セグメント利益は29億55百万円 前年同期比8.5%の減益と、いずれも前年を下回りました。

#### 主要製品



##### 無機化成品

- 不溶性硫黄 (ゴム加硫剤)
- 二硫化炭素 (化学繊維レーヨンの原料)
- 無水芒硝 (入浴剤の温浴効果促進剤、合成洗剤の洗浄助剤)



##### 有機化成品

- シアヌル酸誘導品 (プール・浄化槽の殺菌・消毒剤、船舶バラスト水の塩素処理剤)



##### ファインケミカル

- 電子化学材料 (プリント配線板向け水溶性防錆剤)
- 機能材料 (エポキシ樹脂の硬化剤、樹脂改質剤)

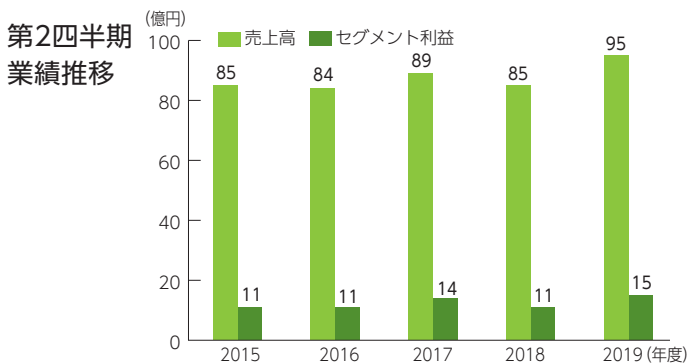
### 化学品事業 61.3%



### 建材事業 37.3%

### 建材事業

売上高 **95億93**百万円  
セグメント利益 **15億27**百万円



前期下期より続く災害復旧需要や危険な塀の建て替え需要などを背景に、エクステリアの販売が好調に推移しました。

この結果、建材事業の売上高は95億93百万円 前年同期比12.3%の増収、セグメント利益は15億27百万円 前年同期比35.7%の増益と、いずれも前年を上回りました。

#### 主要製品



##### エクステリア

- 住宅エクステリア (門扉、フェンス、カーポート、アコーディオン門扉、テラス、アルミシステム塀)
- 景観エクステリア (大型門扉、大型フェンス、通路用シェルター、自転車置場、ゴミ集積庫、屋上緑化等)



##### 壁材

- 内装材、外装材、舗装材



## 便利で快適な暮らしを支える「タフエース」

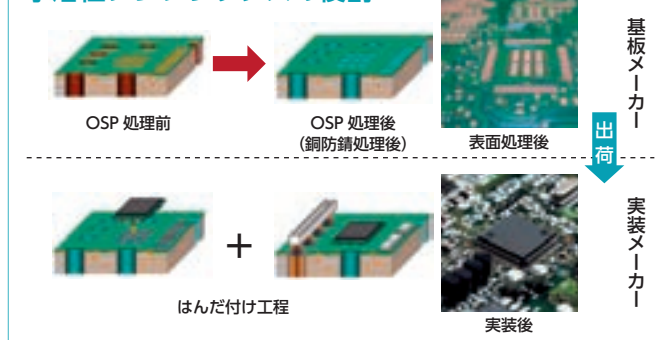
高度な情報技術を支える、便利で快適な暮らし。その一翼を担っているのが当社のプリント配線板向け耐熱型水溶性防錆剤で世界トップシェアの「タフエース」です。

スマートフォン、パソコンなどのIT機器をはじめ、テレビゲームや冷蔵庫などの家庭用電化製品全般、また最新の安全技術で自動運転も視野に入ってきた自動車など、身の回りにある製品にはさまざまな電子部品が使われています。タフエースは、その電子部品が搭載されているプリント配線板の表面に張り巡らされた銅回路の酸化（錆）を防止、電子部品の実装の際に良好なはんだ付け性が得られるようにする役割を担っています。

### 環境性能と機能追求

1972年、当社はタフエースの前身である水溶性プレフラックス（以下OSP）「グリコート」を開発しました。OSPはイミダゾール化合物を主成分とする水溶性の薬剤で、プリント配線板を浸漬すると銅表面に有機皮膜を形成します。この技術は、主成分のイミダゾール化合物の製造販売を手がける当社が銅のみに選択的に化学反応を起こすイミダゾール化合物の特長を生かして、世界に先駆けて実用化しました。しかし、当時は有機溶剤を使用した樹脂系プレフラックスが全盛の中、時代を先取りし過ぎていたともいえました。それでも当社は「環境や製品特性の面で優位性がある」と信じて製品開発を断念することはありませんでした。1980年代後半、電子機器の薄型化・小型化が図られる中で、プリント配線板へのはんだ付け方法が一新され、OSPに耐熱性が求められるようになりましたが、グリコートにはその耐熱性が不足していました。市場の要求に応えるためグリコートをベースに改良を重ね、1990年に耐熱性を高めた製品を開発。熱に強い（タフ）という意味を込めて「タフエース」と名付けられました。

### 水溶性プレフラックスの役割



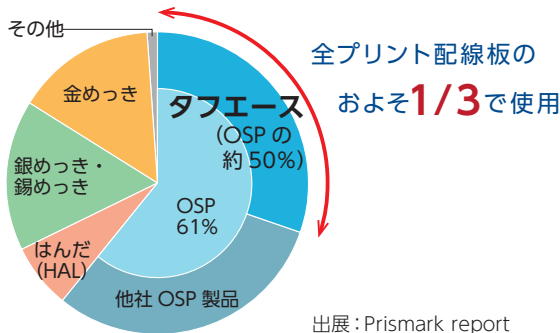
タフエースの第1世代・E1は徐々に顧客をつかみ、売上げを伸ばしていきました。そして、イミダゾール化合物メーカーの強みを生かし、主成分の分子設計から開発に取り組み、さらに耐熱性を向上させたタフエース「F2」を開発。このF2の採用拡大に大きな追い風となったのが、VOC（揮発性有機化合物）規制<sup>\*1</sup>の広がりでした。人体に有害で環境負荷も大きい揮発性有機溶剤を規制する動きが欧米をはじめ各国で始めると、水溶性で環境に優しいタフエースに一気に注目が集まりました。

## 営業方針の大転換、快進撃へ

これを好機に、販売戦略の大転換を図り、最終製品を製造する実装メーカーに対して基板メーカーと協力して営業活動を行うことにしました。1999年について大手電機メーカーの指定を得ることに成功。実用第1号となったそのメーカーのゲーム機が世界的なヒット商品になったことで、タフエースのシェアは一気に拡大しました。これに勢いを得て、海外市場での需要も次々に獲得。また2006年に、欧州で鉛や水銀などの環境負荷物質を規制するRoHS（ローズ）指令<sup>\*2</sup>が施行されたことも、鉛フリーのはんだに対応することのできるタフエースにとって大きなアドバンテージとなりました。

その後も市場のニーズを先取りし、半導体や自動車市場向けのOSPを開発するとともに、タフエースと同じくプリント配線板処理薬剤市場向け製品の粗化薬剤「グリブライト」や密着性向上プロセス「GliCAP」を開発し、事業領域を広げています。

### プリント配線板の表面処理剤市場（2018年）



自動車の自動運転（イメージ）

## 新技術で世界トップシェア製品創出に挑む

現在、国内約90%、海外約50%という圧倒的なシェアを獲得し、タフエースはOSP市場で世界のトップブランドとしての地位を確立。プリント配線板の処理面積のうち約60%がOSPで処理されており、タフエースは世界中で生産されるプリント配線板のおよそ1/3に使われていることとなります。タフエースは、これまで先進的な環境性能や、車載用基板に求められる高い信頼性など、市場のニーズに応じた新しい製品を創り出してきました。今後、安全運転支援システムの普及や次世代通信規格5Gの実用化に伴い、車載や通信関連の需要伸長により、2023年には処理面積がさらに拡大するとともに、OSPの使用比率は約7割に高まると予測されています。当社は、これからもトップシェアならではの強みを生かし、市場の新たなニーズをスピーディーに製品へと反映し続けます。そして、さらなる製品開発を進め、世界トップシェア製品を次々と生み出し続け、世界中の一步先行く豊かで快適な暮らしの発展に貢献していきます。

- ※1 VOCが大気汚染の原因のひとつであるとして有機溶剤の使用を制限する規制。樹脂系プレフラックスに多く使用されるトルエン等が規制された。
- ※2 電気・電子機器などへの特定有害物質の使用制限に関する欧州連合（EU）の法律。有害物質として鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、PBB（ポリ臭化ジフェニル）、PBDE（ポリ臭化ジフェニルエーテル）の6物質が定められ、使用が制限された。2019年7月に改正され新たにフタル酸エステル類の4物質が追加された。

## Topics 「ファンルーフ」が2019年度グッドデザイン賞を受賞

本年4月発売の「ファンルーフ」が2019年度グッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞しました。

「ファンルーフ」は、フラットな木調の天井材を用いたシンプルで建物と一体感のあるデザインのテラスです。リビングの天井を延長したかのような深い軒下は、庭と室内とのつながりを生み出し、四季を通じて心地よく過ごせる新たな生活空間を提供します。昨年の「マイポート7」に続き2年連続のグッドデザイン賞の受賞となりました。

これからも「機能美」に磨きをかけ、「いつもの場所を、価値ある空間に」する製品を提供し続けてまいります。



GOOD DESIGN  
AWARD 2019

四国化成 建材

検索

## ◆ 会社概要

会社設立	1947年(昭和22年)10月10日
本社所在地	香川県丸亀市土器町東八丁目537番地1
上場証券取引所	東京証券取引所 第一部
資本金	68億6,770万円
グループ従業員数	1,202名

## ◆ 役員

取締役 相談役	山下 矩仁彦
代表取締役社長 兼 C.E.O.	田中 直人
取締役 専務執行役員	吉岡 隆
取締役 常務執行役員	松原 純
取締役 常務執行役員	渡邊 充範
取締役 執行役員	濱崎 誠
取締役 執行役員	眞鍋 宣訓
取締役 執行役員	遠所 裕
取締役 (社外取締役)	渋谷 博
取締役 (社外取締役)	寺田 俊文
常勤監査役	古川 和彦
常勤監査役	田邊 賢次
監査役 (社外監査役)	西原 孝治
監査役 (社外監査役)	籠池 信宏
執行役員	岸 孝昭
執行役員	井出 浩孝
執行役員	平尾 浩彦
執行役員	片山 和彦

## ◆ 株式の状況

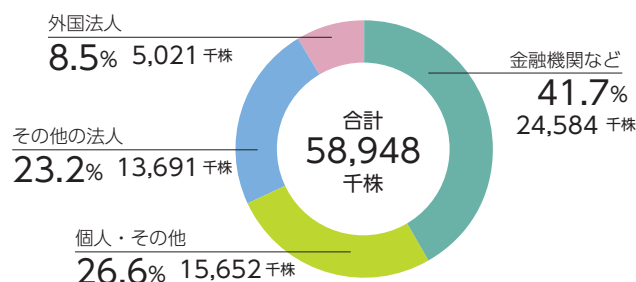
発行可能株式総数	235,850,000株
発行済株式総数	58,948,063株
株主数	4,294名

## ◆ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日清紡ホールディングス株式会社	5,580	9.53
シコク共栄会	4,352	7.43
日本生命保険相互会社	3,295	5.63
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・株式会社百十四銀行口)	2,640	4.51
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,623	4.48
株式会社香川銀行	2,500	4.27
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,997	3.41
株式会社四国銀行	1,750	2.99
株式会社伊予銀行	1,500	2.56
株式会社中国銀行	1,500	2.56

(注) ● 持株比率は自己株式を控除して計算しております。  
● 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託口・株式会社百十四銀行口)の持株数には、株式会社百十四銀行が自己名義で保有している300千株を含めて記載しております。

## ◆ 所有者別株式分布状況



## ◆ 株主メモ

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで</li> <li>■ 定時株主総会 毎年6月</li> <li>■ 基準日 定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 このほか必要ある場合は、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。</li> <li>■ 公告方法 当社のホームページに電子公告として掲載いたします。 <a href="http://www.shikoku.co.jp">http://www.shikoku.co.jp</a> 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 株式に関するお問い合わせ先                     <ul style="list-style-type: none"> <li>● 証券会社等に口座をお持ちの場合 お取引の証券会社等になります。</li> <li>● 証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合) (郵便物送付先) 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部 (電話お問い合わせ先) フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)</li> </ul> </li> </ul>
--	--

## ◆ 株主優待制度について

期末現在における1,000株以上保有の株主様を対象に、地域の特産品(3,000円相当)を贈呈いたします。  
2019年6月には、地元香川の特産品である讃岐うどんをお届けいたしました。